

2017年10月29日

福音書からのメッセージ

今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。
(ルカによる福音書6章21節)

イエス様は語られます。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである」と。この言葉と同じようなものがマタイ福音書にも出てきます。しかしその舞台は山の上であり、その箇所は「山上の説教」と呼ばれています。それに対し、このルカによる福音書は、平地で語るイエス様の姿を描きます。この「平地」ということに、焦点を当ててみたいと思います。

イエス様の前には、おびただしい数の民衆がいました。貧しく、飢え、泣いており、人々に憎まれ、追い出され、汚名を着せられている人がそこにはいました。イエス様は彼らに語り掛けます。大声で叫ぶのではなく、そこにいる人たちと同じ目線にまで下りていき、手を差し伸べながら語り掛けるのです。一人ひとりをじっとみつめ、あなたがたは幸いだ、と宣言する、それがイエス様の姿なのです。

「あなたがた」という呼びかけも、心に留めておきたいと思います。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである」。あなたがたなのです。目の前にいる、あなたが幸いなのです。イエス様はそのように宣言されているのです。

イエス様のもとに来たおびただしい民衆は、イエス様の教えを聞くために、病気をいやしてもらうためにやってきました。彼らの状況はそれぞれ違っていたでしょう。しかし誰もが、傷つき、苦しみ、痛み、何かをすがるようにイエス様の元にやって来たと思います。それは間違いのないことだと思います。そしてわたしたちも、同じ状況の中でイエス様の声を求めているので



はないでしょうか。わたしたちは突然、悲しみの中に落とされてしまうことがあります。涙を流しながら神さまに助けを求め、叫んだこともあるでしょう。さまに助けを求め、叫んだ日のことを思い起こす方

もおられると思います。イエス様はそんなわたしたちに、「あなたがたは幸いだ」と語られます。「今、泣いている人々は幸いである。あなたがたは笑うようになる」。その言葉は、わたしたち一人ひとりにとって、大きな慰めです。素晴らしい祝福です。

涙が笑顔に変えられる。これは大逆転です。神さまにすがるしかない、生きていけない。神さま、どこにいるんですかと叫ぶ人々に、イエス様は宣言されます。あなたがたは幸いなのだと。なぜなら、神の国はあなたがたのものなのだからと。

その声を、どうぞ感じてください。イエス様は遠くから、上の方から語られているわけではありません。スピーカーから声だけが届いているわけではありません。自分の力では動くことすらできなくなった人の元に、涙に暮れて前が見えなくなった人のそばに、そして生きることすら嫌になってしまった人と共に、イエス様はおられ、そして今も何度も何度も語り掛けて来られるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>